

個性派企業ファイル

交通信号機メーカーの信
号電材（福岡県大牟田市、長は胸を張る。昨年9月に糸永康平社長）は開発力の
高さを武器に成長してき
た。太陽光の反射で消灯中
の信号灯も光って見える
「疑似点灯」を防ぐ技術や、
少ない光源でも視認性を高
める技術などを活用した独
自製品を次々と打ち出し、
同社によると国内シェアは
約3割に上る。規模拡大を
図るべく、既存技術を生か
して街路灯事業への参入も
進めている。

「信号機で使用する発光
ダイオード（LED）は従
来、信号灯1つ当たり19
2個。新製品は4割以上少
ない108個だ」。糸永社
長は胸を張る。昨年9月に
発売した新製品は消費電力
が同社従来品比で約2割少
なく、電力料金も最大2割
安い。経費節減につながる
ため、従来の電球式から電
力消費の少ないLED式信
号機への切り替えを進めて
いる各地の警察の関心は高
い。糸永社長は「うまく需
要の波を捉えたい」と意気
込む。

☆☆☆

信号電材 技術力で国内シェア3割

節電や太陽光対策 街路灯参入



鏡を使いながら入念に製品が正常に点灯するか検査する（福岡県大牟田市）

が、同社の高い開発力だ。新製品では、LEDの光を集める信号灯内部のレンズを斜め下向きに取り付け、光が効率的にドライバークラウドに届くように工夫した。光がより広範囲に拡散するようレンズ表面には凹凸もつけた。一方で、信号灯を見つらくする太陽光を遮断するため、信号灯内部に黒色コーティングを施すなど、約1年かけて完成にこぎつけた。

設立41年目を迎えた信号電材は国内の信号機市場の約3割を握る。シェア拡大の原動力となったのが、1992年に開発した「西日は太陽光を特殊レンズで集めた上で、遮光膜で遮断する」方法で克服し、周囲の関心を集めた。その後LED信号機をいち早く開発するなど、中小企業ならではの良さを生かした経営で競争力を高めている。

国内の信号機市場が飽和状態に近づく中、新たな成長市場の模索にも余念がない。東南アジアなど海外の信号機市場での事業拡大を図る一方で、街路灯事業への新規参入も着々と進めている。

「既存技術を活用でき、信号機より市場も大きい」。糸永社長は新事業を手掛ける狙いを説明する。2010年には独照明メーカーと提携し、合弁会社を設立。糸永社長は言葉に力を込める。 (杉本耕太郎)

会社概要	
本社	福岡県大牟田市新港町1の29
代表者	糸永康平社長
電話番号	0944・56・8282
売上高	53億円（2012年6月期）
設立	1972年
従業員	130人
事業内容	交通信号機器材、道路照明・大型道路横断標識柱などの生産

☆☆☆